

2015 年 8 月 29 日

図書館概論 期末レポート

学籍番号：***** *学部**学科2年 みそにんげん

[課題 1]

歴史的にみる図書館の役割

古代の図書館としては、紀元前 7 世紀のアッシリアのアッシュール・バニパル王による文書館がある。ここでは粘土板を分類しており、利用規約もあった形跡がある。また過去の粘土板も収集しており、過去の資料を収集する役割も持っていた。

古代の大きな図書館としては、エジプトの古代アレキサンドリア図書館がある。これは知の収集を役割としていて、最大で 50～70 万冊の本が収集されていた。この図書館はムセイオンという研究施設の付属施設で、古典文献の写本のうちどれが正しいかの研究なども行われていた[1]。

中世には修道院や大学を中心に本の収集が行われた。このころ、本は手書きで複写されていて、修道院ではこれを神聖な作業と捉えていた。なぜならそれは自分の手で神の言葉を書き写す作業であり、しかも書き写した物が他者へ伝わっていくからである。このように教会では複写して収集すること自体にも意義があった。もちろん収集された本は学習や研究にも生かされていたと考えられる。

ここまでは図書館を利用するのは限られた人々であったが、近世になると次第に図書館が開放的になっていく。例えばフランスの宰相マザランの図書館に対する、ノーデという人物の意見の中では、学術的価値のある資料の収集と共に利用者への公開を求めている。また、哲学者ライプニッツは図書館についても思索を行っており、図書館員の職務として利用者への公開に関することを挙げたりしている[2][3]。その思想を体現したのがドイツのゲッチンゲン大学なのだが[3]、そこでは学生への貸し出しも実施された。大英博物館では、1753 年に本を貴重品として展示し始め、さらに 1759 年には一般公開を始めた。このように、中世には図書の収集だけでなく、多くの人に図書を利用してもらうことも図書館の目的となった。

初期のアメリカ(18 世紀初頭)では、図書館は主に宗教の素養を身につけるためのものとして作られた。最初は牧師、後に住民を対象とした。その後アメリカでは、特定の職業・年齢層の人を対象とした会員制図書館が多く作られた。それらは実用的な知識を身につけることが目的であった。しかし経済基盤が安定せず、衰退しやすかった。そんな中マサチューセッツ州のホーレス・マン教育長は学校教育後の知識の獲得手段として図書館の整備に取り組んだ。しかしこれも寄付を経済基盤としたため、不安定であった。そこで自治体の権限として図書館を設置することを認める州法を 1851 年に作り、税金を投入したボストン公共図書館を 1854 年に開館した。こうした図書館の設置目的は、先述の州法の立法賛成演説に

よると、初等教育への価値ある補足を行うこと、万人に十分な実用的知識を提供すること、住民の知的・道徳的向上に貢献すること、重要な公文書や貴重な図書の保管所となることなどである。ボストン公共図書館は公開制で、無償であった。図書館は人々の利用に供する役割を強め、現在の図書館に近くなったと言える。

一方ハンガリーでは、オーストリア・ハンガリー二重帝国という状態から民族意識が高まる中、セーチェーニ・フレンツ提供の資料を中心とした国立セーチェーニ図書館ができた(1802 年[4])。この図書館は自分の国の言葉で自分の国について学ぶための施設であるとセーチェーニは考えた。そのためここにはマジャール語(ハンガリーの言語)で書かれた資料やハンガリーについて書かれた資料が集められた。

日本では、1899 年に図書館令が出され、図書館は図書を蒐集し公共の閲覧に供するものとされた。また地方改良運動の中で図書館は庶民の訓育に資するものとされた。つまり先のボストンの例と同じく、義務教育終了後の若者の学習の場としての役割が期待されていたということである。その後図書館令が改正され、図書を公共の閲覧に供して教養及び学術研究に資するという文言が付け加えられた。また「図書館は社会教育に関し附帯施設を為すことを得」という文言が加わりこれが「附帯施設」論争を巻き起こした。つまり「図書館は自学自習支援という事業の他に社会教育事業をやる必要がある」という解釈と「社会教育としての自学自習支援を行い、必要に応じて他の事業をやればよい」という解釈が対立したのである。最終的には「知識の全範囲に渡る専門性」という図書館固有の専門性に重きが置かれ、後者の解釈が優勢となった。つまり図書館の目的は、そうした専門性を生かした自学自習支援だということになった。

戦後の 1950 年には、連合国軍総司令部民間情報教育局(CIE)によって映画「格子なき図書館」が作られた。これは図書館の入館料徴収・閉架制・カード式目録といった利用者の快適な利用を妨げるものを批判し、新しい図書館の形を提案する映画である。そこで提案されたことは次第に実現していき、無償制・著者名、書名、件名で探せる探しやすいカード式目録・開架式などが取り入れられていった。更に視聴覚資料の提供・移動図書館車による遠隔地へのサービス・映画上映会などの利用者へのサービスが充実していった。つまり資料の保存よりも、市民の利用に供することが図書館の目的とますます重要視されるようになった。

1963 年[5]には『中小都市における公共図書館の運営』(略称:中小レポート)が出され、公共図書館の役割が国民の知的自由の保障とされた。そして目録作成への労力を削って館外奉仕を重視すること、図書の新陳代謝の活発にすることなどが唱えられた。更に人口 5 万人あたりに一つ図書館を設けるという構想を出した。東京都日野市ではこれを実践した。移動図書館から事業を始め、貸し出し・資料費・児童書・分館などの充実を中小レポートの構想を上回る水準で行った。この徹底的に利用を重視した政策は高い成果を挙げた。そして日野市での実践を踏まえて中小レポートを発展させた『市民の図書館』(1970)が出された。そこではあらゆる人への資料提供が謳われ、将来の利用者たる児童への徹底したサービスが主張された。また市町村立図書館は公共図書館の中核だとされた。前段落で利用者へのサー

ビスが充実してきたと言ったが、ここではそれがさらに推進されている。また利用者の範囲を広げることも図書館の目的になってきていると言える。

[課題 2]

図書館が社会についていくためにすべき準備

今後、社会は加速度的にデジタル化が進むと考えられる。そしてデジタル資料の重要性がますます高まると考えられる。その中で、図書館はその社会に遅れず、デジタル資料の提供をする役割を果たすべきである。その役割を果たすために、図書館は次の 3 つのことを準備しておくべきだと私は考える。

第一に、資料のデジタル化を今から始めることである。第二に、資料のデジタル化の必要性を訴えることである。第三に、デジタル資料の良さをアピールすることである。

一点目がなぜ必要かという、資料のデジタル化には時間がかかるからである。そのため、デジタル資料の需要が高まってから作業を始めたのでは間に合わず、市民の需要に応えられないことが予想される。しかも社会のデジタル化の進行速度はかなり早いから、図書館がそれに遅れないためには今から準備を始めることが重要である。

二点目がなぜ必要かという、デジタル化には多くの予算がかかるからである。具体的にはコンピューター関連の設備の整備や、デジタル化作業をする人手などである。このための予算が与えられなければデジタル化は進まない。現状でも、予算がないことはデジタル化が進まない一因となっている。デジタル化において社会に追いつくためには、予算を得てハイスピードでデジタル化すべきである。そのためにも、地方公共団体などにデジタル化の必要性を訴えていくべきである。

三点目がなぜ必要かという、デジタル資料の良さをアピールすることで市民のデジタル化を求める声が高まり、これも予算の増加につながる可能性があるからである。これによりデジタル化の進行が期待できる。

これらの 3 つを準備して、図書館はデジタル社会についていくべきである。

参考文献

- [1] 『アレクサンドリア図書館(二)』 國方栄二 2005 最終閲覧: 2015/02/06 12:52

URL: http://clsoc.jp/agora/column/minidictionary/Alexandria_02.html

- [2] 『図書館の歴史 II (近世～現代)』 坂本旬(法政大学) 最終閲覧: 2015/02/06 12:57

URL: <http://www.i.hosei.ac.jp/~sakamoto/syllabus/01tosho-04.pdf>

なお、[3]も加味し、空欄に入るのは明らかにライブニッツだと判断した。

- [3] 『図書館概論 第 2 回 図書館の歴史』 栗山正光(常盤大学)

最終閲覧: 2015/02/06 13:01

URL: http://www.tokiwa.ac.jp/~mtkuri/toshokan_gairon/2012/toshokan_gairon_2.pdf

- [4] 『国別地域別政策・情報 国別プロジェクト概要 ハンガリー』 外務省

最終閲覧: 2015/02/06 13:06

URL: http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/data/gaiyou/odaproject/europe/hungary/contents_01.html

[5] 『日本図書館協会について』 日本図書館協会 2014 最終閲覧: 2015/02/06 13:08

URL: <http://www.jla.or.jp/jla/tabid/221/Default.aspx>